

環境活動レポート

活動期間

2018年4月1日～2019年3月31日

発行：2019年9月

株式会社 芸濃

1.組織の概要

- ① 事業所名 株式会社 芸濃
- ② 代表者氏名 楠井 隆
- ③ 所在地 芸濃リサイクルセンター：三重県津市芸濃町棕本 3550
- ④ 事業内容 産業廃棄物処理業（産業廃棄物収集運搬、中間処理）
土木工事業
上下水道工事業
とび・土工・コンクリート工事業
機械器具設備工事業
建築工事業
- ⑤ 資本 4000 万円
- ⑥ 沿革 昭和 57 年 11 月 芸濃クレーン創業
昭和 63 年 1 月 株式会社 芸濃 設立
平成 6 年 11 月 産業廃棄物収集運搬許可取得
平成 12 年 6 月 芸濃リサイクルプラント運用開始
平成 12 年 11 月 三重県産業廃棄物処分許可取得
平成 26 年 11 月 三重県産業廃棄物収集運搬優良認定
平成 26 年 11 月 三重県産業廃棄物処分業優良確認
平成 26 年 12 月 岐阜県産業廃棄物収集運搬優良認定
平成 26 年 12 月 滋賀県産業廃棄物収集運搬優良認定
平成 27 年 1 月 愛知県産業廃棄物収集運搬優良認定
平成 29 年 12 月 三重県産業廃棄物処分業優良認定
- ⑦ 事業の規模 ①売上：約 2 億 3000 万円（平成 29 年度分）
②従業員 15 名
③本社：敷地面積 80 m² 延床面積 80 m²
芸濃リサイクルセンター：
敷地面積 12521 m² 延床面積 80 m²

⑧ 許認可一覧と許可品目

- ・産業廃棄物関係
別紙A・B参照
積替え保管 なし

⑨取扱い産業廃棄物

産業廃棄物処理の収集運搬実績

年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
廃棄物収集運搬実績 (運搬数量)	40656.75 t	23125.87 t	37232.02 t

- ・運搬車両の種類

- ・車両の使用燃料及び排出ガス適合車両数

車種	台数	使用燃料
10 t ダンプ車	7	軽油
4 t ダンプ車	1	軽油
2 t ダンプ車	1	軽油
4 t ユニック車	1	軽油
7 t 脱着装置付コンテナ専用車	1	軽油
4 t 脱着装置付コンテナ専用車	1	軽油
合計	12	
平成 17 年度基準 (PM10%低減車)	1	軽油
平成 17 年基準 (NO _x ・PM10%低減車)	2	軽油
平成 21 年度基準	3	軽油

別紙 A

項目	県	許可日 (更新日)		許可内容	許可番号
			有効期限		
①	三重県	平成 29 年 12 月 4 日 平成 36 年 11 月 27 日		産業廃棄物処分業【中間処理】	第 0 2 4 2 4 0 2 5 0 4 1 号
②	三重県	平成 26 年 11 月 21 日 平成 33 年 11 月 20 日		産業廃棄物収集運搬業	第 0 2 4 0 4 0 2 5 0 4 1 号
③	愛知県	平成 27 年 1 月 28 日 平成 34 年 1 月 27 日		産業廃棄物収集運搬業	第 0 2 3 0 0 0 2 5 0 4 1 号
④	岐阜県	平成 26 年 12 月 17 日 平成 33 年 12 月 16 日		産業廃棄物収集運搬業	第 0 2 1 0 0 0 2 5 0 4 1 号
⑤	滋賀県	平成 26 年 12 月 25 日 平成 33 年 12 月 24 日		産業廃棄物収集運搬業	第 0 2 5 0 1 0 2 5 0 4 1 号

許可品目は別紙 B (次頁) 参照

・産業廃棄物中間処理実績

年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
廃棄物処理実績（処理総数量）	51403.31 t	52049.22 t	64744.84 t

・中間処理施設の種類及び処理能力

施設の種類	設置場所	設置年月日	処理能力
破砕施設	津市芸濃町椋本 3550 (芸濃リサイクルセンター内)	平成 12 年 6 月 8 日	ガラスくず等 760 t/日 (8h)
			鉋さい 1280 t/日 (8h)
			がれき類 1280 t/日
混練施設	津市芸濃町椋本 6218-1 (芸濃リサイクルセンター内)	平成 23 年 4 月 15 日	鉋さい 345 t/日 (10h)
			汚泥 180 t/日 (10h)
移動式 破砕施設	津市芸濃町椋本 6218-1 (芸濃リサイクルセンター内)	平成 26 年 10 月 24 日	ガラスくず等 210 t/日 (10h)
			鉋さい 200 t/日 (10h)
			がれき類 126 t/日 (10h)

・許可品目：

【破砕施設】 ガラスくず等・鉋さい・がれき類

【混練施設】 鉋さい・汚泥

【移動式破砕施設】 ガラスくず等・鉋さい・がれき類

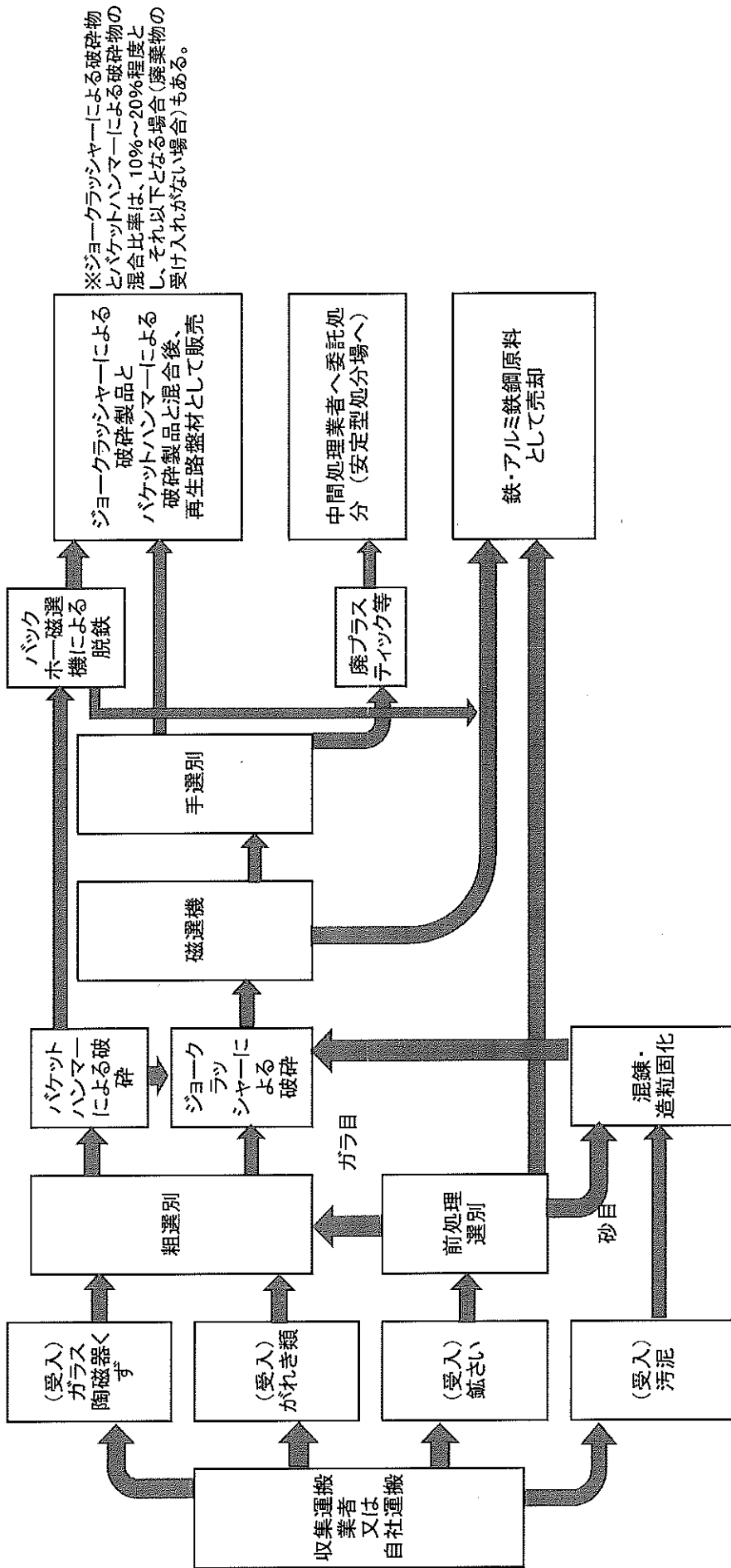
処理工程図

・別紙 C 参照

⑩廃棄物の処理料金

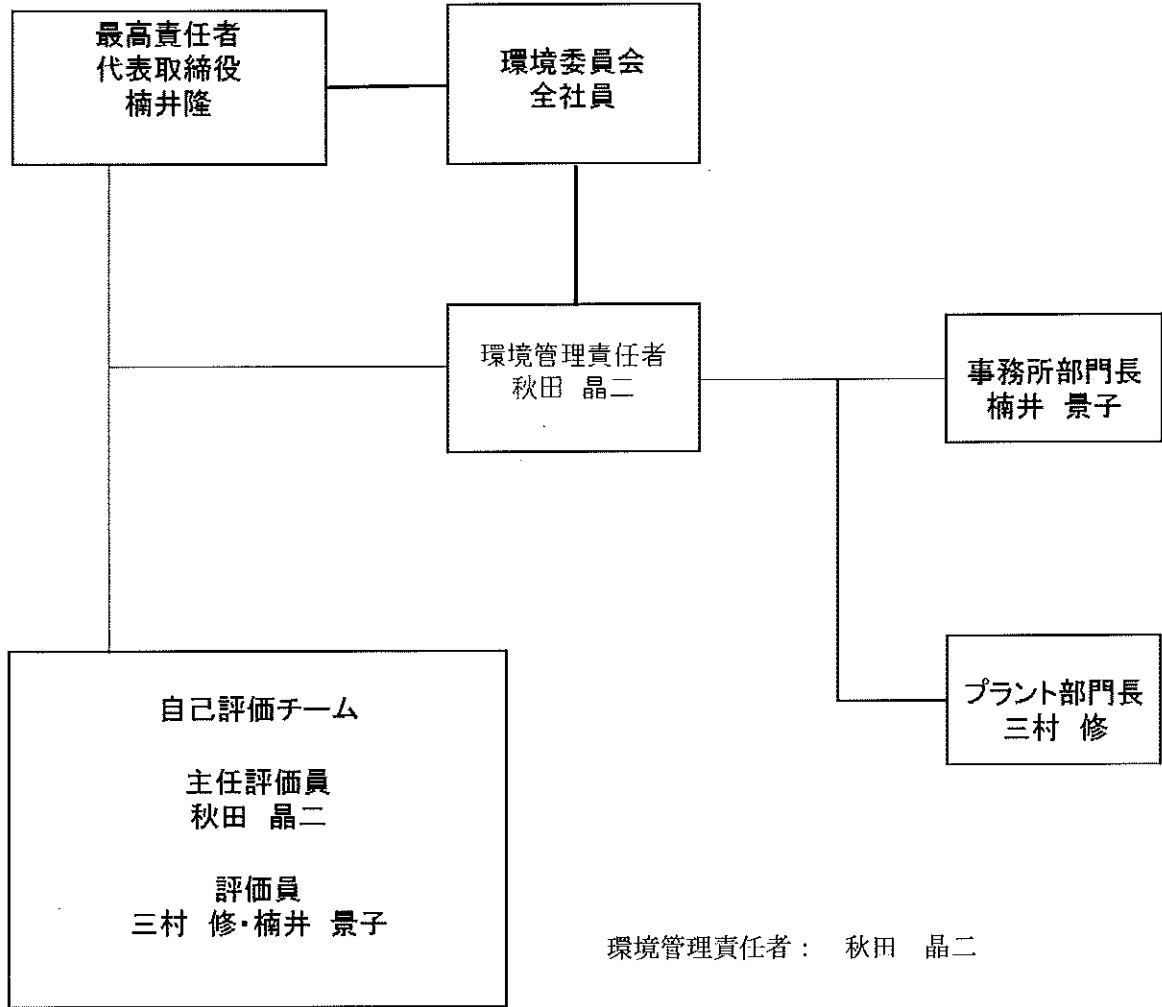
・運搬距離、廃棄物の種類、回収形態等により算出。

産業廃棄物処理工程図



平成28年3月1日現在

①環境活動の取り組み体制



環境管理責任者： 秋田 晶二

TEL : 059-265-4044 FAX : 059-265-4047

2.登録対象

①登録内容

M-EMS登録証

- ・登録日： 2019年5月1日
- ・登録期限 2021年4月30日
- ・登録番号 M-EMS2W-0003 KE S2W-5-0003

- ②登録の範囲 産業廃棄物処理業（産業廃棄物収集運搬・中間処理）、
土木工事業、上下水道工事業、とび・土工、
コンクリート工事業、機械器具設備工事業、
建設工事業に係る全ての事業活動

③対象事業所

- ・芸濃リサイクルセンター：三重県津市芸濃町棕本 3550 番地

3.環境宣言

環 境 宣 言

基本理念

株式会社 芸濃は、地球環境の保全が人類共通の最重要課題の一つであることを認識し、全組織を挙げて環境負荷の低減及び環境保護に努力します。

方針

株式会社 芸濃は、産業廃棄物の収集運搬業務（積替え保管を含む）及び産業廃棄物中間処理業務に係わる全ての活動、製品及びサービスの環境影響を低減するために、次の方針に基づき環境マネジメント活動を推進して地球環境との調和を目指します。

1. 当社の活動、製品及びサービスに係わる環境影響を常に認識し、環境汚染の予防及び環境保護を推進するとともに、環境マネジメント活動の継続的改善を図ります。
なお環境保護には、持続可能な資源の利用、気候変動の緩和及び気候変動への適応、並びに生物多様性及び生態系の保護を含みます。
2. 当社の活動、製品及びサービスに係わる環境関連の法的及びその他の要求事項を順守します。
3. 当社の活動、製品及びサービスに係わる環境影響のうち、以下の項目を環境管理重点テーマとして取り組みます。
 - (1) リサイクル率の向上
 - (2) 廃棄物適正処理の推進（分別方法の指導・提案）
 - (3) 廃棄物の処理量当たりの電力使用量削減
 - (4) 廃棄物の処理量当たりの燃料使用量削減
 - (5) 緑化活動
4. 一人ひとりが環境負荷低減活動及び環境保護に積極的に実践できるように、この環境宣言を組織の全員に周知するとともに一般の方が入手できるようにします。
5. 三重県及び津市の環境改善活動に積極的に参画します。

上記の方針達成のために、環境改善目標を設定し、定期的に見直し環境マネジメントシステムを推進します。

制定日 2012年6月1日

改訂日 2018年4月1日

株式会社 芸濃

代表取締役 楠井 隆

4.環境改善目標

2018年度以降3年間の環境改善目標と実績（基準年度：2017年）

No	環境改善目標		単位	2017年度 実績		目標値		
						2018年度	2019年度	2020年度
1	リサイクル (資源化)率 2017年実績値 の維持管理	0.999 (受入産業廃棄物 量・排出ゴミ)÷ 受入産業廃棄物 量	率	0.999	目標	0.999	0.999	0.999
					実績	0.999		
2	分別方法の 提案・指導件数	年60件以上	件	60	目標	60件以上	60件以上	60件以上
					実績	60	—	—
3	廃棄物の処理 量当たりの 電力使用量 削減	(電力使用量÷ 処理ガラ)	kWh/ t	2.136	目標	0.75%削減 (2.119)	1.5%削減 (2.103)	2.0%削減 (2.093)
					実績	1.689		
	基準年度比 2.0%削減	電力使用量 (管理項目)	kWh	111403	実績	109368		
4	廃棄物の処理 量当たりの 燃料使用量 削減	(燃料使用量÷ 処理ガラ)	ℓ/ t	2.256	目標	0.75%削減 (2.239)	1.5%削減 (2.222)	2%削減 (2.210)
					実績	1.775		
	基準年度比 2.0%削減	燃料使用量 (管理項目)	ℓ	117651	実績	114922		
5	緑化活動	年1本以上 植樹	本	—	目標	1	1	1
					実績	1		

削減率；基準年度比

※中部電力のCO₂排出原単位 0.494 kg-CO₂/kWh (2014年度)

経済産業省・環境省の軽油排出原単位 2.619 kg-CO₂/ℓを参照

※国土交通省間接リサイクル推進計画2014目標値の平成30年度目標99%以上の維持を適用（弊社リサイクル製品は建設リサイクルにおける用途が多いため）

- ・総排水量及び水の使用量においては生活排水のみの為、管理項目として環境改善には含まないが、管理項目として使用量を管理している。
- ・産業廃棄物の排出量は環境改善目標に含まれていないが、管理項目として排出量を管理しており、排出量としては前年度を下回っている。

※化学物質についてはその使用実績がありません。

5.環境改善目標と実績

(基準年度：2017年度)

2018年度 環境改善活動実績 (2018年4月～2019年3月)

No	環境改善目標	具体的施策	項目	単位	目標値	実績値	評価
1	リサイクル (資源化) 率 2017年度 実績値の維持管理	排出事業者への分別 指導 分別・選別作業の 効率化 処分先へのコンテナ 設置、3Sの徹底	受託した産業 廃棄物の 処理量	率	0.999	0.999	A
2	分別方法の提案・ 指導件数の向上	分別方法の改善 廃棄物の再利用 コンテナ設置の推進	提案・指導 件数	件	60以上	60	A
3	廃棄物の処理量 当たりの 電力使用量削減 基準年度比 (0.75%削減)	手元作業員との連携 設備の効率運転 3Sの徹底	電力使用量÷ 処理ガラ	kWh/t	2.119	1.689	A
			電力使用量 (管理項目)	kWh	—	102367	—
4	廃棄物の処理量 当たりの 燃料使用量削減 基準年度比 (0.75%削減)	手元作業員との連携 設備の効率運転 3Sの徹底	電力使用量÷ 処理ガラ	ℓ/t	2.239	1.775	A
			電力使用量 (管理項目)	ℓ	—	114922.45	—
5	緑化活動	計画の策定 植樹の実施 今年度の実施内容の 評価	地域社会の 環境問題	本	1	1	A

評価記号 A:良好 (100%以上) B:やや不足 (90~100%) C:不適合 (90%以下)

管理項目での実績 (2018 年度)

No	管理項目での実績	具体的施策	単位	実績値 (2016)	実績値 (2017)	実績値 (2018)
1	水の使用量削減	洗車時の節水励行	m ³ /年	332	241	238

263

産業廃棄物の排出実績 (2018 年度) 混合廃棄物換算値 (0.26 t/m³)

産業廃棄物の種類	単位	2016 年度	2017 年度	2018 年度
混合廃棄物(ミンチ)	t	31.48	27.40	15.85
混合廃棄物	m ³	39	51.5	40
合計	t	41.62	40.79	26.25

電力・燃料の使用による二酸化炭素排出量 (小数点以下切捨て)

	単位	2016 年度	2017 年度	2018 年度
電力使用量	kWh	131142	111403	102367
二酸化炭素排出量	kg-CO ₂	53087	55033	46270
燃料使用量 (軽油)	ℓ	131142	117651	114922
二酸化炭素排出量	kg-CO ₂	343460	308127	300981
二酸化炭素総排出量 (電力+燃料)	kg-CO ₂	396547	363160	347251

※中部電力の CO₂排出原単位 0.452 kg-CO₂/kWh (2018 年度)

経済産業省・環境省の軽油排出原単位 2.619 kg-CO₂/ℓを参照

グリーン購入 (グリーン購入商品調査・社員へのグリーン購入促進)

	単位	2016 年度	2017 年度	2018 年度
グリーン購入	件	5	4	4

5.1 具体的環境活動の評価（2018年度実績に対する評価）

- ・リサイクル率の向上においては、今年度より計算方法を【受入産業廃棄物量－排出ゴミ】÷【受入産業廃棄物量】という計算方法に変更した。このことにより目標値が実績値を上回ることがなくなり、従事している社員にも理解がしやすくなった。
- ・分別方法の提案・指導件数の向上では目標を達成している。
- ・今年度より、電力に対する改善目標を電力使用量÷受入産業廃棄物量という目標設定に変更した。廃棄物の処理量当たりの電力使用量の項目においては、累計値において目標値を達成している。しかし月毎では目標を達成できていない月もある。原因としては在庫ガラをしようしての製品製作と機械のメンテナンス等による電力の使用量増加と考えられる。
- ・今年度より、燃料に対する改善目標を燃料使用量÷受入産業廃棄物量という目標設定に変更した。廃棄物の処理量当たりの燃料使用量の項目においては、累計値において目標値を達成している。しかし月毎では目標を達成できていない月もある。原因としては搬入されたがれき類が大きく、前処理に重機を使用し細かく破碎しなければならなかったため燃料を多く使用したのと、在庫がれき類を使用しての製品作成を行ったためと考えられる。
- ・敷地内の緑化活動では、境界側に桜の木を1本植樹した。今後も継続していきたい。

5.2 2019年度の活動及び今後の課題

- ・すべての項目で累計では目標を達成できている。月毎の達成に関しては未達成の月もあったが、原因がはっきりしており対策が必要な部分に関しては現場管理によって対策を講じていく。

表-1 2018年度以降3年間の環境改善目標と実績（基準年度：2017年）

No	環境改善目標	単位	2017年度実績	目標	目標値		
					2018年度	2019年度	2020年度
1	リサイクル(資源化)率 2017年度実績の維持管理	率	0.999	目標 0.999	0.999	0.999	0.999
2	分別方法の 提案・指導件数	件	60	目標 60件以上	60件以上	60件以上	60件以上
3	廃棄物の処理量当たりの 電力使用量削減 基準年度比2.0%削減	kWh/t	2.136	目標 (電力使用量÷処理ガラ量)	0.75%削減 (2.119)	1.5%削減 (2.103)	2%削減 (2.093)
				実績	1.689		
		kWh	111403	目標	-	-	-
				実績	102367		
4	廃棄物の処理量当たりの 燃料使用量削減 基準年度比2.0%削減	ℓ/t	2.256	目標 (燃料使用量÷処理ガラ量)	0.75%削減 (2.239)	1.5%削減 (2.222)	2%削減 (2.210)
				実績	1.775		
		ℓ	117651	目標	-	-	-
				実績	114922		
5	緑化活動	本	1	目標 年1本以上 植樹	1	1	1
				実績	1		

削減率：基準年度比

※国土交通省間接リサイクル推進計画2014目標値の平成30年度目標99%以上の維持を適用
(弊社リサイクル製品は建設リサイクルにおける用途が多いため)

6.環境関連法規の順守状況

- ・当社の事業活動に制約を受ける環境関連法規については、適正に順守されており、違反はありません。
- なお、関係機関等からの指摘・苦情・訴訟はありません。

7.最高責任者による全体の評価見直しの結果

7.1 全体評価

目標設定において変更があったが、年間では目標をすべての項目で達成をしている。月毎では目標を達成していない月もあるが、原因がはっきりしており対策も各部署で管理している。

7.2 見直し評価

目標を変更しての初めての年であるため、今後目標の設定方法などに不具合が発生した場合にはその都度見直しを行っていく。当面はこの目標を維持していく。

8.コミュニケーション

プラント周辺の清掃活動を自主的に行った（毎月1回）

以上

